

# カンショ「べにまさり」の品質向上技術の組み立て

みんなで進めよう  
茨城農業改革

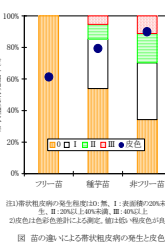
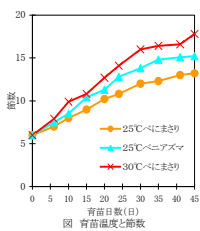
茨城県農業総合センター農業研究所

カンショ「べにまさり」の育苗法、土壌化学性と施肥法、栽植密度と挿苗節数、挿苗期と適在圃日数等、育苗から収穫期までの総合的な栽培技術を作りました。この技術の活用により、丸いも、萌芽いもの発生が低減し、A品率は70%以上確保され、粗収益が向上します。

## カンショ「べにまさり」の栽培マニュアル

### I. 育苗法

◎ウイルスフリー苗による増殖の場合はベニアズマより高めの温度管理  
◎種いも利用は帯状粗皮病による外観品質の低下がみられるため利用しない



### II. 圃場の土壌化学性、施肥量

土壌診断により、可給リン酸、交換性カリ、石灰含量が指標値内の圃場に付与するとともに、窒素とカリの施肥量は、ベニアズマより控える

項目	分析値
pH(KCl)	5.2 ~ 5.4
可給態リン酸(mg)	10 ~ 26
交換性カリ(mg)	37 ~ 50
交換性石灰(mg)	240 ~ 380
炭素率(C/N比)	10.5 ~ 10.9

(乾土100g当たりの値)



窒素施肥量0.4kg/a(標準の4倍量)



カリ施肥量4kg/a(標準の4倍量)

### 病害防除

◎つる割病  
育苗は健全土壌を用い、挿付前に消毒する



### 害虫防除

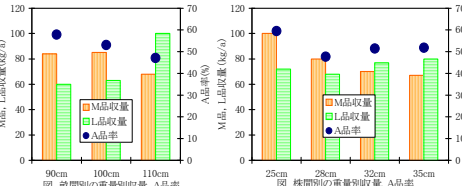
◎ナカジロシバ  
丸く穴の開いた葉が散見される。幼虫発生初期に防除する。多発時は隣接圃場へ移動するため広域に防除



ナカジロシバ幼虫

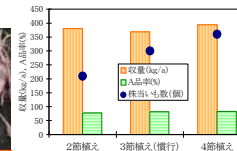
### III. 栽植密度

aあたり、350株植を目標に、畝間は100cm以下、株間は28cm以下



### IV. 挿苗節数

充実した7節7葉苗を取り置きし、4節植する



2節植え



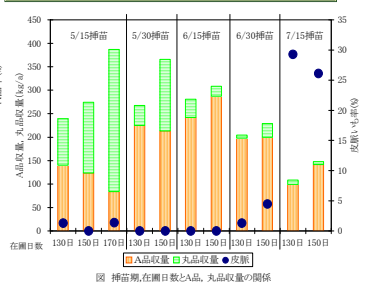
3節植え



4節植え

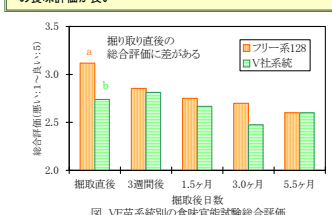
### V. 挿苗期および収穫期

挿苗期は5月中旬～6月下旬までとし、収穫期は5月挿苗では圃日数130日、6月挿苗では降霜前までの11月上旬を目安とする



### VI. ウイルスフリー苗系統別の食味特性

VF苗系統により食味特性に差があり、フリー系128は掘取直後の食味評価が良い



### 実証例

高品質化技術

慣行



- 育苗：ウイルスフリー苗による苗増殖の温度管理は「ベニアズマ」より高めにします。種いもを利用した採苗は、帯状粗皮病による外観品質の低下がみられるため行わないようにします。
- 圃場：pH、可給態リン酸、交換性カリ、交換性石灰含量、炭素率の土壌化学性が指標値範囲内を選定します。
- 植付株数：畝間100cm以下、株間28cm以下、aあたり350株植えを目安にします。
- 挿苗：取り置きし、充実した7節7葉苗を4節まで植えます。
- 挿苗期：5月中旬から6月下旬までとします。
- 収穫期：5月中～下旬挿苗では圃日数130日を目安に、6月挿苗では11月上旬(降霜前)までに収穫します。

## 品質向上技術の効果

本技術による栽培の結果、慣行の栽培と比べて、収量は同等で、丸いも率が低下し、A品率が70%以上確保できます。萌芽いも率は低下し、粗収益(慣行を100とした場合の指数)も向上します。

	A品率	丸いも率	萌芽いも率	粗収益(指数)
総合技術	70%	19%	7%	123
慣行	53%	31%	24%	100